

トピックス III

ワクチン接種後の血管迷走神経反射

第3期、第4期の麻しん風しんワクチンの接種が定期接種になったことにも関連して、比較的年長の者に対する予防接種に際しては、血管迷走神経反射に注意する必要がある。注射の痛みや恐怖・不安等の精神的動揺により起こる生理的反応で、症状としては、顔面蒼白、冷汗、気分不良、悪心・嘔吐、徐脈、血圧低下、失神などが起こる。失神したときに外傷を起こさないよう、接種後30分は座って体調を観察し、何なければ帰宅するよう指導することが重要である。日本赤十字社によると平成16年度に献血時に気分不良、吐き気、めまい、失神などが起こった頻度は約0.8%であり、米国でもワクチン接種後の失神について、MMWR, 57, No.17, 457-460, 2008に論文を掲載している。その内容の抄訳が病原微生物検出情報 (IASR) 2008年6月号に掲載されているので、そこから内容を一部を抜粋する。

ワクチン副反応報告システム (Vaccine Adverse Event Reporting System; VAERS) の2005年1月1日～2007年7月31日のデータを解析し、2002年1月1日～2004年12月31日の結果と比較したところ、

2002～2004年の期間中には203件の報告であったのに対し、2005～2007年では463件のワクチン接種後失神の報告が、5歳以上で報告された。5歳以上での年別発生率 (100万接種当たり) は、2002年0.30、2003年0.35、2004年0.28、2005年0.31、2006年0.54であった。2002～2004年と比較して、2005～2007年では、女性および11～18歳に明らかな増加が見られた。また、2005～2007年に報告された463件のうち、292件 (63%) は最近承認され、思春期成人に接種が推奨されている3つのワクチンのいずれかに関連していた。2005～2007年の463件のうち、33件 (7.1%) は重篤な結果を引き起こし、そのうちの26件についてワクチン接種から失神までの時間を調べたところ、12件 (52%) が5分以内、16件 (70%) が15分以内であった。26件のうち10件が失神に伴って受傷したが、うち9件は頭部外傷で、1件は運転中の失神による交通事故であった。ワクチン接種後失神に関連した受傷防止のため、ワクチン接種に関する諮問委員会 (ACIP) はワクチン接種後15分間の観察を強く推奨している。
